

会報
藤井寺市観光ボランティアの会

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1 (藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)
TEL : 072-939-1086 FAX : 072-936-9777 藤井寺 観光 ボランティア 検 索



第 21 号 2018 年 7 月

《 平成 30 年度にむけて 》 藤井寺市観光ボランティアの会 会長 鈴木繁實

日頃より当会にご協力、ご支援いただきありがとうございます。

当会は平成17年に設立し、今年で13年目を迎えます。現在68名の会員で年間5千名を超える“ふじいでら”内外のお客様をお迎えしております。大阪府下にある国宝の仏像5体のうち2体が安置されている名刹の葛井寺と道明寺、菅原道真公のルーツの地といわれる道明寺天満宮と、ヤマト王朝の大王が眠る古市古墳群などがご案内の人気となっています。

本年の9月には世界文化遺産候補である百舌鳥・古市古墳群をユネスコの諮問機関であるイコモスが現地調査する予定です。登録推進を応援する市民団体として当会の役割を果たしていきたいと思っています。新しい部会に「世界遺産部」を設けて、積極的なかわりを担う体制を整えつつあります。

またお客様によりよい“おもてなし”のできる学習をするほか、外国からのお客さまに英語でガイドができる準備も進める予定です。

本年度もご支援賜りますようよろしくお願いします。

《 平成30年度の活動について 》

このたび、再度事務局幹事を仰せつかりました岩崎です。

体力等の衰えでご期待に沿えないことが多々あると思いますが、皆様のご支援ご協力を頂き、楽しく活動できる環境作りに微力を傾けたいと思いますのでよろしくお願い致します。

いよいよです。来年度の「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録への期待が益々高まっています。当会でも今年度より「世界遺産部」が発足しました。

来客数の増加や、関係機関や団体との連携の高まりなど、我々の活動も多岐にわたるものと予想されます。これらを元気で楽しく取り組みましょう。

(事務局 岩崎)

《 タブレットで初ガイド 》

昨年、世界遺産登録推進に関連して画像アプリで見るヴァーチャルリアリティー<古墳の時代をのぞいてみよう>が藤井寺市で制作されました。これを受けて当会ではタブレットを使った古墳ガイドを計画し、今年2月、大阪市立大学の教官とその講座生で各地の現役ボランティアをしてられる方々7名にご参加いただきました。

今回のコースでは3ヵ所の古墳で映像を見ていただきました。墳丘側面に葺石がぎっしり敷き詰められた築造当時の古墳の姿や、くびれ部分で古墳に向けてタブレットを左右に動かすと墳丘を横から眺める世界が、また上空から埴輪の並んだ古墳や古市古墳群をパノラマ画像で体感していただきました。その後、現地でこれを見るのは、古代の姿をより実感できるのでよかったとの感想もありました。タブレットの数や操作、見る時間、ガイドの構成などの問題を含め、私たちにとっても今後の糧となる貴重なガイドでした。

今回ご協力をいただいた皆様、寒い中最後までお付き合いいただきありがとうございました。(広報部)



《 道明寺天満宮 梅まつり 》 2月17日(土)～3月10日(土)

今年の梅まつりは天候不順の為開催期間が変更され、当会では2月10日から2月28日まで境内にテントブースを設置、大勢の方々が立ち寄られました。「天満宮の縁起」「古市古墳群の地図」四月開催の当会恒例の「春季ウォーク」などのチラシを配布し、境内のミニガイドや説明など対応させていただきました。

特に百舌鳥古市古墳群の写真パネルに興味をもたれる方が多く、堺のグループの方とは、世界文化遺産登録に向かってお互いに頑張りましょうと握手する場面もありました。

5～6名のマレーシアの方はツアーガイドつきで梅園巡りをされているとか、又オーストラリア、コロンビア、スペイン、中国の方々もおいでになりました。スマホなどで多くの情報が広まっており、梅まつりを通じて国際色豊かな交流がたくさんありました。



梅まつりでの投句も年々増えており、今年の奉納俳句は500首近くになりました。入選作は当会ホームページにも掲載しております。期間中お越し頂きました方々、関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。(吉田知)

《 ふじいでら春季ウォーク 》 ～古市古墳群ビッグ3と桜～ 4月7日(土)

桜は1週間前に早くも満開。前夜は嵐。当日雨は止み、時折強い風が吹きつける肌寒い日となりました。さてお客様は？ 途切れることなく順調に来られ、今回の参加者は173名でした。気象条件の悪い中でも大勢のご参加を頂き感激しました。

コースは、道明寺、道明寺天満宮、辛國神社、葛井寺の4社寺と、古市古墳群の巨大古墳である応神天皇陵古墳、仲姫命陵古墳、仲哀天皇陵古墳のビッグ3をめぐるコースです。ご希望の方には地元の酒造にもお寄りいただきました。



古室山古墳の頂上では、強風に帽子を押さえながら二上山、葛城山を眺め、またあべのハルカスの姿を見つける方などもおられました。応神天皇陵古墳では「前方部の拝所側の一边は300m。さっきのあべのハルカスと同じ長さです」の説明に驚かれ、小さい子どもたちはドングリや葉っぱを拾い、1日のコースを楽しんでいただきました。

最近のウォークはお客様が多くなったように感じます。世界文化遺産の登録を意識されてのことでしょうか。嬉しいことです。

寒い中ご参加いただいたお客様、関係の皆様ありがとうございました。(山崎)

《 藤ノ森古墳石室見学 》 ～ウォーク&クリーンに参加して～ 3月24日(土)

古墳清掃ウォークのご褒美は専門家からの説明です。藤ノ森古墳石室は応神天皇陵古墳のかたわらで普段非公開の美陵ポンプ場敷地内にありました。初めての見学に興味深々でした。

それは板石をドーム状に積み上げた小さな初期の横穴式石室でした。「木棺は入るの?」と思わず覗きこみました。野中古墳と同時期に造られ、馬具の轡(くつわ)や大陸産のガラス玉などが副葬品と教えていただき、倭の五王の時代性を垣間見た気がしました。(木内)



《 葛井寺 藤まつり 》 4月14日(土)～29日(日)

今年の葛井寺「藤まつり」は花の咲き始めが早くなりました。参詣者の出足もよく、土曜・日曜は特に盛況で、天平衣装撮影会の21日、22日は当会のテントを開ける前より待つ人がおられ、一日てんやわんやの対応となりました。昨年に比べ 2.2 倍の88名の方が、楽しそうにポーズをとり、藤の花に負けぬ美しい笑顔を咲かせていました。

比較的天気にも恵まれ、テントでご案内した数は2097名と昨年より38%の大幅増でした。藤の花の咲き具合はやや不調でしたが、今年の特徴的なことはテレビ放映がたびたびされたことでしょうか。3月に東京国立博物館の国宝展にご本尊が出開帳され、圧倒的な人気を受けました。

今年の葛井寺は、西国三十三ヶ所観音霊場の当番にあたり、阿弥陀二十五菩薩堂が約50年振りに一般公開されました。この為遠く関東方面からも多くの参詣がありました。東京で千手千眼十一面観音像を拝観し、その迫力に感動され、出張の合間に訪ねて来られた60歳前後の立派な紳士は「思ったより、境内が狭いですね。葛井寺の字は藤ではなくて葛ですがどうしてですか？」と尋ねられ、もっと大きな寺と思っておられたようです。境内や周辺のミニガイドもはっきりなしで大盛況のうちに30日、当会のテントを撤収致しました。



(小野)

《 小学校世界遺産学習 フィールドワーク 》 藤井寺北小学校 4月27日(金)

毎年4月から5月にかけて、藤井寺市内の小学校6年生は、藤井寺市教育委員会が実施するフィールドワーク「世界遺産学習」として市内にある古墳の勉強に出かけます。当会は、本年も市内7校すべての小学校に古墳ガイドのお手伝いをさせていただきました。いつもの大人に向けてのガイドと違い、子供たちの初々しい心に何が残るだろうと私は緊張します。



小学校ではすでに古墳や「百舌鳥・古市古墳群」が2019年の世界文化遺産登録を目指す国内の推薦候補に選ばれたことについての事前学習がなされています。それらのことがあってか古墳に興味を持って参加してくれる児童たちが増えてきたようです。私が担当した小学校の皆さんは、とても静かで、しっかりと話を聞いてくれました。最後の応神天皇陵古墳でも、素早く集合してメモを取り、集中力を切らさず私の方を見てくれていました。

この児童のうちの誰かが優秀な考古学者・歴史学者になって、未だに残るたくさん古墳の謎を解き明かしてくれる！そんな確信が持てるようでした。

(森康)

《 飛鳥キトラ古墳壁画体験館とその周辺の史跡を歩く 》 現地研修会3月19日(月)

現地ガイドの案内で飛鳥駅前を出発。春の野道を渡来人が多く居住していた集落にある檜隈寺跡、於美阿志神社を經由し、キトラ古墳へ。四神の館では手に取るように古墳の壁画を見、石室についてビデオで勉強させて頂きました。

昼食後、土筆、白花たんぽぽ、露の臺など草花が咲く道を文武天皇陵へ。遥か彼方に二上山を眺められる朝風峠。息を切らせて峠を越えホッと一息ついたとき、稲刈棚田の案山子道路で大きな忍者案山子が「よく頑張った！！」と迎えてくれました。

飛鳥川に掛かる「男綱」の川岸にピンクの花をいっぱい咲かせた大きな木。村の人に尋ねて「こぶし」と教えられました。飛び石を渡り次に石棺が外から見学できる金鶏伝説の「都塚古墳」そして最終目的地、蘇我馬子の墓とされる石舞台古墳へ。雨が心配される1日でしたがみんな無事に約2万歩余りの楽しい現地研修会でした。またもう一度飛鳥路をゆっくりと散策したいと思いました。

(足立正)



大井という村は、昔は「大井千軒」と言われ、近隣では小山村に匹敵する大きな村でした。

私がお子供のころの昭和30年代でも、大井の村人の生活は村の中だけで完結できました。風呂屋が1軒、医院が1軒、歯科医院が1軒、その他、食堂が1軒、自転車屋が1軒、散髪屋が2軒、美容院(パーマ屋)が1軒、魚屋が2軒、八百屋が1軒、下駄屋が1軒、米屋が1軒、塩屋が1軒、化粧品店が1軒、よろず屋が2軒ありました。肉屋は隣の沢田村に1軒ありましたが、よろず屋に行けば肉類は手に入りまして、味噌、醤油、酒類や日用品なども売ってました。駄菓子屋が1軒あり、子供たちの遊び場になっていました。鍛冶屋が1軒あり、村人の鍬や鋤などの農機具やハサミや包丁などの研ぎをしていました。新しく製造することはなかったと思います。

ほかに古市警察署(現羽曳野警察署)大井駐在所があり、お巡りさんが家族と暮らしていました。

お寺は浄土真宗本願寺派(西本願寺)誓願寺、浄土真宗大谷派(東本願寺)正念寺、浄土宗(一心寺派)入信寺の3か寺が今もありますし、神社は村社の志疑神社があります。

村人が亡くなると葬儀は自宅で行い、家族や弔問客の食事は隣家の台所を借りて煮炊きしました。葬儀が済んだ後の野辺送りの葬列を「葬列(そうれん)」と言い、子供たちは葬列に纏わりついて配られるお菓子をもらいました。村はずれの墓地の真ん中には火屋(ひや)があつて亡くなった人を火葬していました。

村には鉄道が通っていなかったのので、大阪市内に行くには村の東側から大和川に架かる河内橋を渡って国鉄の柏原駅まで行き、汽車に乗って天王寺駅まで行きました。今のJR柏原駅から天王寺駅に行くことを「大阪へ行く」と言いましたが、近鉄土師ノ里駅を利用して阿倍野橋駅に行く人は少なかったように思います。

古墳のある風景 12

川上 恵 エッセイスト

仁徳の母

眠りについてからのわたくしは、とても平安でした。
幸せに浸っている日々でございました。
夫の応神天皇陵とわたくしの陵は、手を伸ばせばとどく近さ。
夫の息遣いを自分だけが感じられる喜び。

わたくしは仲姫命。仁徳天皇の母です。
羨ましいような境遇ですって? そうでしょうか。本当にそう思われますか。
わたくしの姉は隴たけた美しい人でした。
妹は若さで眩しいほどでした。
そんな姉と妹も天皇にお仕えたのです。
皇后とはいえ、わたくしとて石ではございません。
心にさざ波がたたなかつたと言えは嘘になります。
けれど、
わたくしたち姉妹は、天皇家の血をひく気高き血筋。
女の仕事は血筋を絶やさないとのです。それが務め。



仲姫命陵古墳

わたくしが逝き夫が逝き、
数えきれない年月を、春の陽ざしのように穏やかに過ごしておりましたものを、
世の中にはお節介で無粋な方がいらっしゃるものですね。
夫の傍にわたくしは眠っていないとおっしゃるのです。
じゃあ、夫の傍に眠っているのは誰なのでしょう。
わたくしは一体どこにいるのでしょうか、
わたくしはまた苦悩を生きるのでしょうか。